横浜YMCA　みつかる。つながる。よくなっていく。　No.497 2019

YMCA News 9

2019年9月1日発行
（毎月1日・1回発行）
1988年1月27日第3種郵便物認可
定価50円
発行／公益財団法人横浜YMCA
広報センター
〒231-8458
横浜市中区常盤町1-7
Tel 045-662-3721
横浜青年

スポーツとYMCA

横浜YMCA健康教育事業推進　北田　純一

体を動かしやすい秋を迎えます。2020年東京五輪・パラリンピック開催まで300日あまりとなりました。NHK大河ドラマ「いだてん 東京オリムピック噺（ばなし）」では、当時のスポーツの普及にYMCAの関わりも紹介されました。今号では「スポーツとYMCA」を紹介し、体を動かすことにより、心身共に健康な日々を送ることにつなげていきたいと思います。

▲横浜YMCAでは1976年に横浜中央YMCA新会館オープンに伴い、室内プールが設置され水泳を中心とした青少年・幼児教育がはじまり、今につながっている。

私たちを取り巻く生活環境は、大きく変化しています。利便性の向上、情報化社会の進展、労働形態の変化などにより便利な生活ができるようになった反面、運動不足やストレスの増加につながり、人びとの健康を脅かす要因の一つにもなっています。自由時間の増大や高齢化の進展は、明るく健康な生活への関心を高め、以前にも増して、健康で明るく豊かな生活を求めるようになっています。

また、子どもたちは、体を動かす機会の減少や生活習慣の乱れから、体力・運動能力が低下しているという報告があります。体力は、子どもたちが豊かな人間性を培い、自ら学び、考えるといった「生きる力」を身につける上で重要な要素であり、体力の向上は、次代を担う子どもたちの心身の健全な発育・発達のため、社会全体で取り組まなければならない課題の一つであると言えます。

2020年東京五輪では、33の競技が実施されますが、野球、ソフトボール、空手、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィンが新たな種目として加わります。既存の種目である水泳やバスケットボール、バレーボール、フェンシングなどの歴史をたどるとYMCAがその紹介や普及の一翼を担ってきました。

横浜YMCAでは、1927年に関東大震災でダメージを受けた会館を全面増改築し、室内体育場も設置され活動が盛んになりました。体育場では、1930年にデンマーク体操、1931年に神奈川県第1回バレーボール大会がYMCAの主催で行われました。この体育館では、バスケットボール（下枠記事）や、体操なども行われました。バドミントンは、1921年に横浜YMCA体育主事の広田兼敏氏が、名誉主事のS・スネード氏からバドミントン用具一式を譲り受け、横浜の欧米人によって運営されているスポーツクラブで手ほどきを受けたことが始まりといわれ、1933年には、横浜YMCAの活動に取り入れ広く伝えられました。1940年代当時は、スポーツなどにより青年の敗戦による心のダメージの解消につながりました。

横浜YMCAでは、現代社会の中で子どもから高齢者までのあらゆる世代が、スポーツや運動を通して、心身共にバランスのとれた健康な生活を送るサポートを続けていきたいと思います。

北米YMCAで考案のバスケットボールを紹介

バスケットボールは、アメリカのマサチューセッツ州スプリングフィールドの国際YMCAトレーニングセンター体育教師のJ・ネイスミスが冬季のスポーツとして1891年に考案しました。同スクール（現・スプリングフィールド大学）を卒業した、東京YMCA体育主事大森兵蔵が1908年にバスケットボールを日本に紹介し、横浜で最初に作られた横浜YMCA（現横浜中央YMCA）の体育館で紹介されました。8月には全国YMCAの大会が三重県で開催されます。

地域に根差した社会教育活動に1976年に横浜文化賞受賞

横浜YMCAは、「人間としての豊かさを求めて」をテーマに、豊かなコミュニティーを作ろうと、横浜中央YMCAをはじめ、横浜北（菊名センター）・藤沢YMCAなどを設置し活動を展開しました。1976年には、戦前からの永きにわたる職能教育、スポーツ振興活動に対して「横浜文化賞」を受賞しました。「すべての人に体育を」とスローガンを掲げて、肢体不自由児のための水泳キャンプ、目の不自由な子どもたちの水泳教室を開催しました。

ホドス

今年の「敬老の日」は16日、この日の目的は、「社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う」であるらしい。誰に祝われ励ましてもらうのか。若い世代からと考えるのが自然だろうが、歳をとって自分を振り返ると、私の社会的な貢献は昔も今も怪しく、若い世代から敬愛されるようなものでない。ただ高齢の日々は結構難しい時なのは間違いない▼私はこれまで「無理に自分の老いを無視せず、かつ、あまり老いに服従しない」を意識してきたつもりだが、最近の自分を思うと、老いの衰えを無視などできず、服従せざるを得ないことが多くなってきた。体力と気力の衰え、夜の読書は全く無理、医者が、あなたの指先のリウマチは軽いと励ましてくれるが、不快な痛みと字を書く難しさが私には重症そのもの▼そんなことを関西に住む60年来の友人に電話で愚痴ると、キケロの「友情論」で語られる最高齢者大カトーは85歳、君の80歳はまだ若いと笑い飛ばされた。この友人は3年前にお連れ合いを天に送り一人暮らしの88歳。少し前には、今年も仲間との写真展の案内があり、神戸に来たら神戸港のクルーズをしてフランス料理を食べようと一筆添えてあった▼彼も私もあの2千万円騒動には無関係なつましい年金生活者だ。違いは彼が厳しい病を経験し、かつお連れ合いの死を経験しているのになお明るい。今度の電話では高齢を愚痴るより高齢の明るさの秘訣を聞くことに決めている。（準）

横浜 みんな友だちに カロム大会開催

県内8つのYMCA学童クラブと、横浜市から横浜YMCAが運営を委託されている8つの放課後キッズクラブの合同による「第8回カロム大会」が8月6日に横浜市舞岡地区センター（横浜YMCA指定管理者）にて開催され、124人が参加した。

「カロム」は、おはじきのようにコマを手ではじき、相手より先に自分のコマをボードに入れていくゲーム。午前中には、62チームによる予選リーグが行われ、決勝トーナメントに32チームが進出し、熱戦が繰り広げられた。優勝は上飯田小学校放課後キッズクラブ「1・2カロム」（写真）、準優勝は菊名小学校放課後キッズクラブ「Knight・エンペラー」、3位は菊名小学校放課後キッズクラブ「MKMT」となった。

この大会では、子どもたちがSDGs（持続可能な開発目標）を意識して取り組めるよう開催された。

YMCA NETWORK NEWS

YMCA CAMP 100

日本のYMCAは2020年にキャンプ100年を迎えます。

1千人を超える子どもたちが参加
キャンプできずな深めた

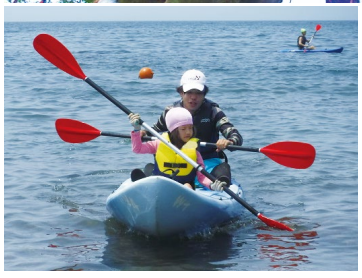
横浜YMCAでは、今年も夏休みに自然の中で仲間とともに生活し、さまざまな体験を通して新しい自分や仲間が出会い、それぞれが成長を感じられるキャンプを国内外にて実施し、1050人を超える子どもたちが参加した。

「森の探検」「ネイチャーキャンプ」は、3泊4日で小学1年から6年生を対象に富士山YMCAで行われた。ネイチャーキャンプでは、テント泊を行い、富士山からの日の出を見たり、野外炊事や乗馬体験、ツリーイング、クラフトなどのプログラムを体験した。ツリーイングでは、10メートル以上もある高さの木にかかったロープを使い登った。台湾からのユースリーダーによる台湾の文化紹介があった。キャンプでは、食事の準備は、それぞれが役割を担い、協力して進めるため、日ごろの食事に感謝するとともに集団生活でのルールや仲間と協力することの大切さを学んだ。

「三浦シーサイドアドベンチャーキャンプ」は、3泊4日で小学1年から6年生を対象に、三浦YMCAにて行われ、スノーケリングやカヤックを体験した。カヤックは漕ぐと勢いを増して進む感覚を子どもたちが楽しんだ。夜には縁日を行い、グループごとに出店した。ゲームやかき氷などの店をグループで運営した。集団生活を通し仲間を思いやる気持ちを養いきずなを深める機会となった。

海外プログラムは、カナダ・モントリオールでホームステイをしながらモントリオールYMCAの語学学習に参加する「モントリオールホームステイ」が14泊16日で行われ、世界各国から集まった仲間たちとスポーツなどのアクティビティを楽しみながら英語を学習した。

夏のキャンプは、このほか、YMCA東山荘（御殿場）や杉の里キャンプ場（山梨県道志村）などでも行われ、新しい仲間と出会い、心身共に成長を感じられる夏となった。



▲富士山YMCAでツリーイングを楽しむ子どもたち
◀三浦YMCAでカヤックや海のスポーツに親しんだ

世界の仲間と平和の思い共に
YMCA国際青少年平和セミナー

終戦から74年目の夏を迎え、県内の各YMCAでは平和について考える取り組みや青少年の広島平和セミナーの参加など、平和への思いを共にする時を過ごした。

8月6日の原爆記念日に合わせて広島市で開かれた「第41回広島YMCA国際青少年平和セミナー」には横浜YMCAからユース4人が参加し世界や国内からのユース73人と平和について考えた。

このセミナーは、1977年に「平和」について深く考え、国際交流を図ることを目的に始まった。今年も8月4日から8日に行われ、被爆者の講演会や平和記念資料館の見学、参加者同士のディスカッションやフィールドワークなどを行った。6日には平和記念式典に参列し、平和について学びを深めた後、海外のユースとともに世界中の子どもたちからの平和のメッセージを灯ろうにして川に浮かべ祈りを捧げた。

また、8月19日から21日には、横浜YMCA学童クラブと放課後キッズクラブに登録の4年生以上14人が「ピースキャンプ～ひろしまスタディツアー」に参加し平和について学ぶ機会をもった。

▲全国の折鶴と合わせて横浜YMCAからの2,650羽の折鶴も捧げられた

Topics

台湾からの学生（ICCPJ）みうら夜市で地元市民と交流

ICCPJ（International Camp Counselor Program in Japan）は、台湾の学生が夏の1カ月間、キャンプカウンセラーとして 日本の YMCA キャンプ施設に 台中YMCA を通して各地に派遣されるプログラムで、今夏は横浜YMCAにおいて富士山YMCAと三浦YMCAの2つのグローバル・エコ・ヴィレッジにおいて4人を受け入れました。

三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジにて活動を行った二人は、8月9日に、吉田英男三浦市長を表敬訪問しました。懇談では、公私にて台湾を訪れたことのある吉田市長が台湾の魅力を語られ、ICCPJの二人は、YMCAでの毎日の様子や和菓子に魅せられていること、大学卒業後は日本で学びたいなどと語りました。二人は8月13日に、三浦市三崎下町商店街で行われた「みうら夜市」に参加し、浴衣を着用してオーストラリアからの英語講師との交流や、和菓子作りにチャレンジするなど地元市民との交流も深めました。

▲浴衣を着て「みうら夜市」を楽しむICCPJのリーダーたち（左2人）

今月の「平和の川柳」

万国旗
心をつなぎ
手をつなぐ

ペンネーム　イナバウアーの白兎さん(一般)

♪子育てランド♪ 自然の力借りて育む

私は、以前ドイツの森の幼稚園でボランティアをしました。そこでは「好奇心があるから、学校の授業も興味をもって集中して聞くことができる」と言われていました。自然の中の教育がだれにとっても一番良いということではなく、その子にあった環境で過ごせるように、ドイツの幼児教育にはシュタイナー、モンテッソーリ、森の幼稚園、音楽幼稚園、小学校に入っても、イエナプランなど多様な選択肢があります。

YMCAオベリン保育園では、地域活動としての森の幼稚園活動の中で虫探し、観察、がけ登り、ザリガニつりなどを行っています。子どもの興味はさまざまですが、どの子も目をきらきらさせる瞬間があります。友だちと協力することや、チャレンジして達成・成功する体験を通して、友だちとの関係を深め、自信につながっていきます。自然の中で過ごすことが一番なのではなく、一人ひとりの育ちを大切にし、自然の力を借りながら過ごしていけたらと思っています。

（YMCAオベリン保育園
副主任 鶴見菜穂）

横浜 会員交流をスポーツで

スポーツを通して会員相互の交流を深めようと「第19回横浜YMCA会員スポーツ大会」が、9月23日（月・祝）に聖光学院中学校高等学校体育館（JR根岸線山手駅下車）で開催されることになり、参加チームを募集している。子どもから高齢者まで誰でも楽しめるビーチボールを使った「ビーチボールバレー」を4人1組のチームで予選リーグと決勝トーナメントを行う。子どもが参加できる「玉入れポン」のゲームも行う。

昨年は、横浜YMCAに集う会員や専門学校生、学童クラブや保育園の子どもたち、卒園児、ワイズメンズクラブ、保護者、リーダーなど28チーム約180人が参加した。優勝は湘南とつかYMCA、準優勝はYMCAマナ保育園のチームが収めた。

当日は午前9時30分に集合し午後2時30分に閉会の予定。参加希望チームは、9月6日（金）までに参加費（一人500円）を添えて県内の各YMCAへお申し込みください。先着48チームまで。

〈話す〉と〈リアル〉にをテーマにAIDS文化フォーラムin横浜

▲生きやすい世の中についてマイノリティとマジョリティから考えた

AIDS文化フォーラムin横浜（同組織委員会主催・横浜YMCA事務局）が、8月2日から4日に、かながわ県民センターで開催された。今年で26回目を迎えたフォーラムは「〈話す〉と〈リアル〉に!!」をテーマに医療や保健、予防、教育、感染者支援などの分野で58の講座や発表、展示、交流プログラムが行われ全国から延べ4千347人の参加者があった。田口努組織委員長（横浜YMCA総主事）は、開会式で「出会って話すことを通じてエイズやLGBT、いのちについてリアルになることを感じ、考え、自分事としましょう」と述べた。

オープニングでは、白阪琢磨さん（エイズ予防財団理事長）、佐藤郁夫さん（日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラススピーカー）、北山翔子さん（神室紳也さん（AIDS文化フォーラムin横浜運営委員）が「話してリアルになったこと」をテーマに、それぞれの視点から共に生き、理解をするためには、HIV／AIDSだけではなく、多様なことを当事者の方と話すことが大切であると実体験を語り合った。

横浜YMCAでは「教室で使える！HIV／AIDSを伝えるワークショップアイデア」（YMCA ACT）や「ボランティアの一歩inタイ」として、横浜YMCAとタイ・バンコクYMCAが取り組んでいる児童保護プロジェクトについて現地を訪問したユースが報告を行ったほか、横浜AIDS市民活動センター（横浜YMCA運営受託）では、夏休みの自由研究のための書籍を紹介した。フォーラムの運営は、延べ80人のボランティアにより行われた。

平和な社会創るために大和や藤沢で平和を考える集い

▲台湾先住民族の苦難と希望の歴史から平和について共に考えるひと時をもった

横浜YMCAでは8月に、平和について考える取り組みを各地で行った。このうち、大和YMCAライフサポートセンターでは、地域のキリスト教会とともに8月3日にカンバーランド長老キリスト教会高座教会にて「やまと平和を祈る集い」を開催し、89人が平和について共に考えた。

第1部では、小泉麻子牧師（日本基督教団大和教会）から「許されざる者」の題でメッセージがあった。第2部では、君島洋三郎牧師（日本基督教団高座渋谷教会）が「傷ついた葦を折ることなく〜台湾先住民族の苦難と希望の歴史から平和を考える」をテーマに、先住民族の歴史を学び、君島氏の体験から農村伝道神学校での台湾先住民族のための伝導者養成などを通して共に歩むことの意味を考えた。

同日、藤沢YMCAでは市内のキリスト教連絡会（事務局藤沢YMCA）主催で藤沢聖マルコ教会（藤沢市）にて「平和のための合同祈祷会」が行われた。

チャリティーラン11月16日(土)に開催

障がいのある子どもたちを支援していこうと毎年秋に開催されている「横浜YMCAインターナショナル・チャリティーラン」（後援・内閣府、神奈川県ほか）は今年で第22回を迎える。毎年10月に開催されているが今年は、ラグビーワールドカップ2019開催時期と重なる会場の関係により、11月16日に横浜みなとみらい21地区の臨港パークにおいて開催されることになり、参加チームとスポンサーの受付が始まった。

チャリティーランは、全国各地のYMCAで開催されており、昨年は全国20カ所で実施され、1048チーム、支援総額は4345万7748円となった。横浜YMCAのチャリティーランは、参加費1チーム5万円としている。昨年は、地元企業や団体など109チームが出場し545万円が障がいのある子どもたちの支援に用いられた。

レースは、臨港パークに特設されたコースを5人がリレー形式で周回する。コースはAコース（一人1周1100メートル）、Bコース（一人1周800メートル）、Cコース（一人1周180メートル）からチームにあったコースを選ぶ。昨年に引き続きチームの5人全員が仮装やパフォーマンスで想いや願いを表現するパフォーマンスラン（チーム全員でスタートし180メートルを歩いても可）も行う。参加の申込みは、県内の各YMCAで受け付けている。問い合わせは事務局☎045（661）0080へ。

維持会員

小俣妙子・生亀充子（順不同・敬称略。8月10日までに入金いただいた新規登録の方です）

こもれび　しわを合わせて

総主事　田口　努

おばあちゃんのかおには
しわがいっぱいある
かぞえたらふたいのが12本
おばあちゃんのかおを
かみにかいた
しわを2本すくなくかいたら
おばあちゃんは
とてもうれしそうにわらった
そしたらもっとしわがふえた
でも　ぼくはだまっていた
（いしいさとし　6歳）

敬老の日に、保育園の子どもたちが高齢の方と握手をした時に、子どもたちが、思いがけずおばあちゃんの手のしわを触り数え始めた。

なんでしわがあるのと聞くと、笑いながら木の年輪みたいなものだとの答えに、不思議そうにしながらもいつまでも手を放さず、しわで遊んでいた。おばあちゃんは「みんなの手は、暖かく柔らかくて気持ちがいいね」と笑顔で言うと、子どもたちもうれしそうにしていたのをこの詩を読んで思い出した。何とも言えない平和な時間を感じた。両手のしわを合わせて幸せとも言う。そんな時間に感じた。

今年4月から横浜YMCAが運営する14番目の保育園である大和YMCA保育園は、YMCAの高齢者施設に併設された保育園として注目されている。101歳の方が0歳や1歳の子を抱く姿がブログで紹介され、100歳を超える命のつながりに驚く。

開園から5カ月が経ち、子どもたちの歌のプレゼントに「元気が出るね」と笑顔と涙が出る方や『こんにちは赤ちゃん』を返礼で歌う方もおられる。毎月の避難訓練も一緒に行っている。夏休みには小学生やボランティア、保護者など多世代の交流が広がる。

幼な子と高齢者、一人ひとりの命を感じる互いの手のしわを合わせ、喜びに満ちた幸せを感じる場を大切にしたい。

FLASH NEWS

横浜YMCAでは、台北YMCAとの交流を行っているが、8月2日から6日に台北YMCAで開催された「2019スイミングフェスティバルin台北」に横浜中央・横浜北・川崎・湘南とつかYMCAのスイミングクラスに通う子どもたち8人が、台北・台南・高雄のYMCA合同のスイミングフェスティバルに招待チームとして参加（ソウルYMCA、香港中華YMCA、大阪YMCAも招待チーム参加）し、交流、観光なども行った。

介護やリハビリテーションの支援活動を行っている「ミャンマーボランティアの旅」は、2019年から新たにタングーYMCAと協働して進められている。9月7日（土）午後3時から5時には、ミャンマーYMCA同盟より総主事ならびに理事、ユースが来浜し、横浜中央YMCAにおいて現地の様子を語る。申し込みは国際・地域事業へ。

ワイズコーナー　時代先取りのYMCAで

厚木ワイズメンズクラブ

「神様からのお導き」？であったのか、キリスト教信者ではありませんが「犠牲と奉仕」とは何ぞやを自分に問いかけてきた私がワイズメンズクラブに関わったことは偶然ではないような気がします。

私の知っているYMCAは時代を先取りしている学校のようなイメージがあり、正直ワクワクしています。ワイズメンズクラブが手の足りない時のお助けマンにとどまらず一緒に夢を語ることができる存在になったらと思います。何しろ、地理・音楽・薬学・体操・エンターティナーなど、いくつかの顔をもつメンバーが勢ぞろいしています。「いい足長おじさん」になりたいと思います。

（厚木ワイズメンズクラブ会長　日下部美幸）

横浜中央YMCA ☎045(662)3721
横浜北YMCA ☎045(433)4321
藤沢YMCA ☎0466(26)1151
横須賀YMCA ☎046(834)5811
川崎YMCA ☎044(932)2031
厚木YMCA ☎046(244)4181
YMCA ACT ☎045(316)1881
鎌倉YMCA ☎0467(24)7859
YMCA山手台センター ☎045(813)1022
湘南とつかYMCA ☎045(864)4768
金沢八景YMCA ☎045(782)3003
YMCA東とつかセンター ☎045(392)3747
大和YMCAライフサポートセンター ☎046(264)3192
横浜YMCAワークサポートセンターアンジュ ☎045(867)0090
横浜YMCAワークサポートセンターレザン ☎045(860)5252
YMCAあつぎ保育園ホサナ ☎046(222)8619
YMCA山手台保育園アルク ☎045(813)1022
YMCAとつか保育園 ☎045(870)3663
YMCAマナ保育園 ☎045(790)3588
YMCAとつか乳児保育園 ☎045(870)3235
YMCAつるみ保育園 ☎045(500)5030
YMCAかわさき保育園 ☎044(520)1825
YMCAいずみ保育園 ☎045(800)3010
YMCA東とつか保育園 ☎045(820)5588
YMCA東かながわ保育園 ☎045(440)3763
YMCAたかつ保育園 ☎044(281)7833
金沢八景YMCA保育園 ☎045(353)5130
YMCAオベリン保育園 ☎042(707)9974
大和YMCA保育園 ☎046(214)3192
富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ ☎0544(54)1151
三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ ☎046(888)2100
鶴見中央YMCA ☎045(508)7800
YMCAライフサポートセンター鶴見 ☎045(506)0131
YMCAライフサポートセンター関内 ☎045(680)6680
本部事務局 ☎045(662)3721

INFOMATION

横浜YMCA

レクチャー

■イングリッシュセミナー
日　時　９月20日（金）午前10時～正午
会　場　鎌倉YMCA　201教室
テーマ　Positive Psychology and Hikikomori Youth
講　師　Shinichiro Matugumaさん
参加費　会員1,100円、一般1,400円
申込み　鎌倉YMCA　☎0467(24)7859

■神奈川子ども未来ファンド連続セミナー
日　時　第２回９月29日（日）午後２時～５時
会　場　ワークピア横浜
テーマ「虐待の連鎖を止めよう」
講　師　川松　亮さん（明星大学人文学部福祉実践学科常勤教授）
飛田　桂さん
（ベイアヴェニュー法律事務所弁護士）
参加費　2,000円
申込み　神奈川子ども未来ファンド事務局
info@kodomofund.com
主　催　神奈川子ども未来ファンド
共　催　横浜YMCA

キリスト教理解

■聖書からの学び
日　時　９月５日（木）
午前10時30分～11時10分
会　場　湘南とつかYMCA　２階教室
講　師　堀野浩嗣氏
（横浜戸塚バプテスト教会牧師）
テーマ「主イエスと出会う」
参加費　無料
問合せ　湘南とつかYMCA　☎045(864)4768

■バイブルカフェ
日　時　９月26日（木）
午後６時30分～７時30分
会　場　川崎YMCA　21教室
講　師　青木　靖氏（登戸エクレシアキリスト教会副牧師）
テーマ「人生のチャレンジと聖書」
参加費　無料
問合せ　川崎YMCA　☎044(932)2031

■聖書を読んでみよう会
日　時　９月10日（火）午後６時30分～８時
会　場　横浜中央YMCA　６階教室
テーマ「ルカによる福音書を読む」
参加費　無料
問合せ　横浜中央YMCA　☎045(641)5492

■聖書に聞く「イエスのたとえ話その１」
日　時　９月20日（金）午前11時～正午
会　場　横須賀YMCA
テーマ「放蕩息子」のたとえ
参加費　無料
問合せ　横須賀YMCA　☎046(834)5811

イベント

■第９回 You & Iコンサート
日　時　９月28日（土）
午後２時開演、午後１時開場
会　場　都筑公会堂（横浜市営地下鉄線センター南駅下車徒歩５分）
曲　目　W.A.モーツアルト「アイネクライネナハトムジーク」 他
出　演　横浜室内合奏団・歌劇団
参加費　1,000円（全席自由）
問合せ　横浜北YMCA　☎045(433)4321

カルチャー

＜なつかしい童謡や唱歌を歌います＞

■横浜中央YMCA　歌のハーモニー
日　時　９月10日、24日（火）
午前10時～正午
対　象　一般、ウエルネス会員
会　場　横浜中央YMCA
参加費　一般1,000円、ウエルネス会員無料
申込み　横浜中央YMCA　☎045(661)0084

■北YMCA　うたごえひろば
日　時　９月10日（火）
午後12時40分～２時30分
対　象　一般（熟年世代の皆さん）
会　場　北YMCA　３階スタジオ
参加費　300円
申込み　北YMCA　☎045(433)4321

■湘南とつかYMCA　うたごえひろば
日　時　９月17日（火）午後２時～４時
対　象　一般（熟年世代の皆さん）
会　場　湘南とつかYMCA　１階ホール
参加費　300円
申込み　湘南とつかYMCA　☎045(864)4768

■藤沢YMCA　うたごえひろば
日　時　９月20日（金）
午後１時15分～３時15分
対　象　一般（熟年世代の皆さん）
会　場　藤沢YMCA
参加費　500円
申込み　藤沢YMCA　☎0466(25)1151

■厚木YMCA　うたごえひろば
日　時　９月24日（火）午後２時～３時30分
対　象　一般（熟年世代の皆さん）
会　場　厚木YMCA
参加費　500円
申込み　厚木YMCA　☎046(222)8619

■生麦地域ケアプラザ　うたごえひろば
日　時　９月18日（水）
午後１時30分～３時30分
対　象　一般（熟年世代の皆さん）
会　場　生麦地域ケアプラザ（横浜YMCA運営委託）２階多目的ホール
参加費　100円
申込み　生麦地域ケアプラザ
☎045(510)3411

子育て支援

■横浜子育てサポートシステム入会説明会
日　時　９月12日（木）、27日（金）
午前10時30分～11時30分
会　場　中区地域子育て支援拠点のんびりんこ
対　象　横浜市子育てサポートシステムに入会を考えている方
問合せ　横浜市子育てサポートシステム中区支部事務局　☎045(663)0676

学校説明会

■横浜YMCA学院専門学校作業療法科
日　時　９月21日（土）午前10時～12時30分
内　容　入試説明会
申込み　☎045(641)5785

■YMCA健康福祉専門学校
日　時　９月７日、21日（土）午前９時30分～12時30分、午後２時～５時
内　容　学校説明会
申込み　☎046(223)1441

■横浜YMCAスポーツ専門学校
日　時　９月14日（土）
午前９時30分～12時30分
内　容　学校見学会
申込み　☎045(864)4990

■YMCA国際ビジネス専門学校 観光ビジネス科
日　時　９月14日、28日（土）
午前10時～正午
内　容　学校説明・体験会
申込み　☎044(932)2015

※日程や内容の詳細についてはwww.yokohamaymca.ac.jpをご覧ください。

ボランティア情報

■第22回横浜YMCAインターナショナル・チャリティーラン
日　時　11月16日（土）
会　場　横浜みなとみらい21地区臨港パーク内特設コース
集　合　午前８時横浜みなとみらい21地区臨港パーク汐入の池
解　散　午後３時予定　現地解散
内　容　チャリティーラン運営ボランティア（設営、コース誘導、観客案内・誘導、受付など）
申込み　11月１日（金）までに横浜YMCA事務局へ　☎045(661)0080

My Y Story 116

多様さ受け入れる心もつ「Y っ子」増やしたい。

川崎YMCA運営委員　渡邉　和樹

私とYMCAの出会いは、横浜中央YMCAにある横浜YMCA学院専門学校に入学したことです。はじめは、作業療法士になる夢を持ち入学しました。２年生になった年の夏に、キャンプリーダーとして道志で行われた杉の里キャンプに初めて参加しました。そこで子どもたちの笑顔やキャンプという短い期間の中で、子どもの成長を感じることができたことで私の心が大きく動かされました。そして、「これからも子どもたちに関わりたい」という気持ちが強くなり、それからは毎シーズンのキャンプにリーダーとして取り組むようになりました。

その後、活動の拠点を横浜中央YMCAから自宅に近い川崎YMCAに移し、シーズンキャンプだけでなく野外活動クラブのリーダーとしても参加するようになりました。

野外活動では、毎月関わるからこそできる子どもたちとの信頼関係を築くことができ、関わっているリーダー同士とも「この子にはこうしよう」「あの子にはこうしてみたらどうだろう」といった話し合いを重ねました。

富士山YMCAにおける駐在リーダーや全国YMCA、東日本YMCAのリーダー研修会にも参加し、そこで出会ったリーダーたちとの交流を経て、多様な考え方を持っている人がいること、自分一人でできないことでも、仲間と協力することで多くのことができるようになることも教えられました。当時、一緒に活動していたリーダーたちとは、今でもつながっており私の人生においてとても大切な仲間になっています。

▲2016から2017年にかけての年越しファミリーキャンプでリーダーたちと（前列左）

現在は、川崎YMCA運営委員として、また、後輩リーダーたちとも関わりを持ち続けています。今年度からは、ベビースイミングに我が子を通わせているので、リーダー・運営委員・保護者としての多側面な視点からの関わりを積み重ねています。リーダーの頃には、分からなかった保護者の目線から感じることもあり、その思いを後輩リーダーたちに伝えていきたいと思います。我が子にはもっと「Y っ子」になってもらいたいと願い、さらに「Y っ子」を増やしたいと思います。

▶デスクペン　今年も残暑が厳しいです。9月は各YMCAや保育園などでスポーツ大会や運動会などが行われます。読書・スポーツ・芸術、それぞれにとって実りの秋になりますように。（直）